

I

【出題意図】

本文では、イギリスにおいて、コマドリがいかに人々の生活に密着した鳥として親しまれてきたか、それによっていかに関連する文化が生まれ、育まれてきたかが説明されている。設問では、文単位、段落単位の構造を把握しながら適切に説明文を読み解く能力が問われている。また、記述問題では題意を適切に理解した上で対応する答えを導けることが求められる。そのためには文意を理解するだけでなく、適切な情報を抽出した上で過不足のない日本語の形で記述する能力が必要となる。また、後述するが、本文の記述はしばしば対比や時系列といった原則で進められており、こうした説明の仕方を読み取ることも解答の上で必要となる。文法に従って読む力や一定の語彙力に加えて、文章のジャンルを意識しつつ読むということにも日頃から取り組まれない。

【評価のポイント】

問1は単語の意味を尋ねるものである。単純な語彙力というよりもむしろ、前後の文脈から意味を推測する力および、英語で示される語意説明を理解する力が重要となる。問2～4の記述問題では、解答欄の大きさも考慮し、解答に必要な内容を抽出して表現することが重要である。その中でも問2・4では、【出題意図】で述べた対比構造を把握した上で、その対照を「AはBであるがCはDである」という形で明確に示せることが望ましい。問3では論理的欠落、飛躍のない記述が特に求められる。コマドリがクリスマスカードに描かれた理由を答えるためには、「郵便配達員の制服姿がコマドリと結び付いた」ことだけでなく、このことによって「コマドリがクリスマスカードを運ぶイメージが生まれた」ことを述べる必要がある。問5では、特に‘eventually took over’という部分に着目することで適切な補充箇所が見出せるだろう。

【答案の傾向】

問1 正答率が高かった。

問2 解答の根拠となる部分を適切に見つけ出し理解できていると思われる答案が多かった。他方で、コマドリの一般的な性質とイギリスでの特殊性との対照を明確に日本語で記述できている答案は少なかった。また、記述問題に共通することだが、本文の対応する箇所をそのまま訳してすべてを盛り込もうとした答案が多かった。ある程度抽象化した形で、解答に必要な要素のみを示すことが望ましい。

問3 「イギリスの郵便配達員が赤い制服を着ていた」ことが概ね書けていた一方、これに起因して「胸の赤いコマドリと結び付いてクリスマスカードを運ぶイメージが生まれた」という点が表現できていない答案が散見された。

問4 問2同様、解答の根拠となる記述を理解しながらも対照がはっきり書けていない答案が多かった。この設問では、虫を食糧とする鳥の中でコマドリとそれ以外の鳥との対照を示すことが必要となる。

問5 よくできていた。

II

【出題意図】

コロナ禍で様々な行動制限が設けられ、旅行、観劇、コンサート、宴会ができなくなり、人々の娯楽、楽しみがなくなってしまった。そんな状況をポジティブに捉え、幸福のあり方の転換を促し、ギリシャ思想に根ざした「ataraxia/心の平安」こそが人の幸せをもたらす、と説いた英国ガーディアン紙の記事から出題した。「コロナ以前の旅行や宴会などの享樂的、外的な活動で得られる幸福感 vs 欲望や快楽を求めず、鳥瞰的に世界を見ることで感じられる内面の充足感」を対比的に論じ、後者を重要とする本文の主張を的確に捉えられているかを見るために、下線部の内容説明、具体的な事例の判別、意見を英語で表現するという問題形式で出題した。

【評価のポイント】

具体例がいずれの幸福のあり方の説明になっているのかを理解しているかが、本文の読解の成否の鍵となる。さらに読み取った内容を設問の指示に従って的確にまとめ上げることができるかが肝要である。

【答案の傾向】

問1 概ねよく出来ていたが、(a)our successful old approaches と(b)the inevitables in life のいずれにおいても、下線部前後の具体例のみを列挙する答案が見られた。「. . .など、昔ながらの幸福感を得る方法」、「. . .など、人生で避けられない負の経験」という形で解答することが望ましい。また(a)をコロナ対策の成功例と取り違えた答案も散見された。

問2

1. この問題を解答するための鍵は、第3、4段落を精読し、ataraxia の特質をよく理解することにあるが、やや難しかったようである。強い欲望、妬み、恐怖に動じない「心の平和、内面の平穩、強さ」を指摘できるとよい。最終段落を読み損ねたことが原因と思われる「快樂主義」、「多幸福感」といった、本来の意味とは反対の理解を示す解答が誤答の中で目立った。そのほか、当該下線部直前を根拠とした「アハ体験」という誤答も同様に散見された。

2. 正答率が高かった。解答の根拠となる箇所を本文から確実に拾い上げられていた。

問3 正確かつ適切な英語で自分の意見を表現している解答が多く見られた。賛否について意見を明示した後、その理由と詳細な説明や具体例をあげながら論理的に述べている一貫性のある文章や、本文の内容（Gambardella の意図）を十分理解したうえで、それを反映させながら自分の言葉で表現している優れた解答があった。その反面、インスタグラムの是非にだけ言及しているものや、個人の経験談だけを綴って理由が理由として成立していないものも散見された。意見—理由—結論という型も大切であるが、それにとらわれ過ぎて内容が薄くなるのではなく、理由と支持内容を的確に述べることを望まれる。

III

【出題意図】

2021年に米国のNew Yorker誌に発表された短編小説の一部から出題した。本文で描かれている、インドに移住したイギリス人の家庭で働いている主人公のインド人女性や彼女が関係する人々の心情および生活状況についての的確に理解し、設問の意図に沿って適切に日本語でまとめることが出来るかを見ようとした。また、形容詞を選ぶ問題では、それぞれの英単語の意味を把握し、空所の前後の文脈を的確に読み、最もふさわしい語を選ばせるものである。英語で書かれた論説文や説明文だけではなく、一定の長さの物語文も限られた時間内で読めるように、普段から多面的な(様々なジャンルに渡る)英語の読解力や語彙力をつけることが肝要である。

【評価のポイント】

本文の本質的な理解に不可欠とも言える箇所について、設問の前後のコンテキストを視野に入れながら適切に把握し、それを設問の指示に従って的確にまとめ上げることが出来るかがポイントとなる。そういったことがきちんと出来ているかを、設問ごとに細かい具体的な基準を設けて評価した。加えて、より良い答案を書くためには、本文の内容の全体的な理解も必要である。

【答案の傾向】

問1 概ねよく出来ていた。

問2 広い範囲にわたって本文の各所を把握する必要があるため、やや難しかったようである。しかし、ポイントを的確に押さえている優れた答案も一定数見られた。

問3 よく書けている答案が比較的多く見られたが、時間が足りないため十分に解答が書けていない答案も見られた。

問4 複数の理由をあげることが要求されているが、一つの理由しか示せていない答案が散見された。

問5 よく出来ていたが、Geetaがイギリス人家庭の二人の子どもたちの所から去るということに言及していない答案が一定数見られた。

IV

【出題意図】

夏休みに英語圏への短期語学研修への参加を考えているという友人からのメールに返信をすることが求められている。2つの候補があり、その選択に迷っているという状況を踏まえ、100語程度の英語でアドバイスを与えることを求める形式である。2つのプログラムのうちどちらがよいかを明確に示し、そのあとに説得のある理由(複数)と理由の裏付けとなる説明を添えながら、メールの英文をまとめられる力があるかどうかを見た。

【評価のポイント】

まずは相手が友人であるという意識を持つようにする。インフォーマルな文体を使ってアドバイスを与えることになる。

アドバイスの内容は、英語のパラグラフの書き方にならって書くとよい。つまり、最初に主題文(thesis statement)を書き、自分の立場を明確にする。友人のメールの結びの文が

“If you were in my place, which would you prefer?” となっているので、“If I were in your place, I would prefer ○○.” のように述べ、自分の意見を明示する。続いて、自分の意見をサポートする理由を述べるとよい。表の中に2つのプログラムに関する違いがいくつか見てとれるので、その中から自分が重要だと思う理由を2つほど述べるのが望ましい。「100 語程度の英語」という制約の下、あまりに多くの理由を述べてしまうと、それらの裏付けが書けず、理由の羅列になりがちなので避けた方がよい。2つの理由を述べる際には、First of all (Firstly), Secondly などの discourse markers を使うと読者にとって読みやすい英文となる。さらに理由を述べる際に、2つの候補を対比することになるため、but, however, in contrast, on the other hand などの「対比」を表す discourse markers を効果的に使いたい。それぞれの理由については、その理由を支持する詳しい説明 (explanation) や具体例 (example) を添えることによって、説得力のある文面になる。

【答案の傾向】

全体として概ねよく書けていた。理由を述べているものの、その裏付けとなる説明が不十分であり、説得力に欠ける英文がいくつか見られた。また、語数が十分でないもの、理由を単文で羅列しているだけのもの、アドバイスの内容が友人のメールの内容とかけ離れたもの、○○もいいが、△△もいいと2つのプログラムそれぞれの良い点を述べ、自分の立場が定まっていないものなどが一部見られた。